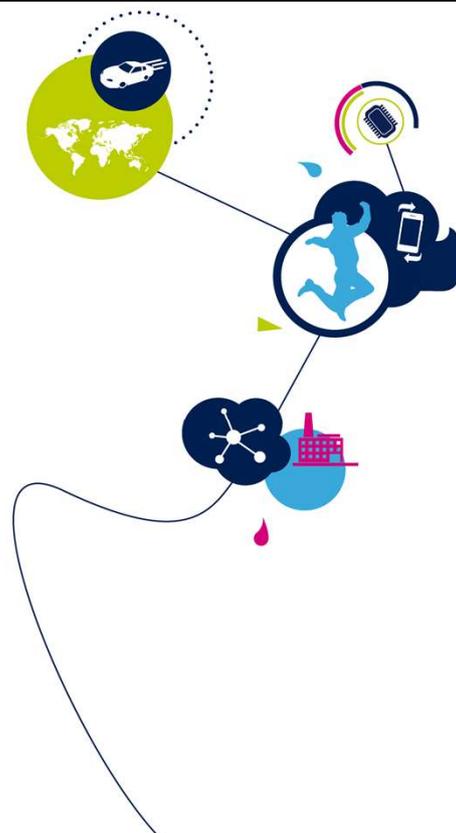


# STM32G4 - HRTIM

高分解能タイマ  
1.0版



こんにちは、STM32G4高分解能タイマのプレゼンテーションへようこそ。デジタル電力変換アプリケーションに必要な複雑な波形を管理するための主な機能をカバーします。

## なぜ高分解能なのか？

2

- 高分解能タイマ(HRTIM)は、高速なPWMスイッチング周波数が必要なデジタル・パワー・アプリケーションに対応
  - より高いデューティ・サイクル分解能(降圧/昇圧コンバータ、...)
    - 出力電圧の精度向上
    - リミットサイクル問題の回避
  - より細かい周波数と位相調整(LLCおよび位相シフト・コンバータ、...)
    - より優れた規制と負荷の一時的な管理

タイマ	タイマの分解能 等価のクロック周波数	TIMx	高分解能タイマ
分解能 ( $F_{PWM}=300kHz$ )	5.9ns 170MHz	566レベル (9.1ビット)	184ps 5.44GHz
周波数調整ステップ ( $F_{PWM}=300kHz$ )		532Hz	16.5Hz



高分解能タイマは、高いPWMスイッチング周波数を必要とするスイッチモード電源などのデジタル電源アプリケーションに対応しています。

これにより、通常は降圧または昇圧コンバータのデューティサイクル分解能を大幅に向上させることができます。これにより、より良い出力電圧分解能とレギュレーションが得られ、デューティサイクル精度がA/Dコンバータの精度よりも低い場合に通常の分解能タイマで起こりうるリミットサイクルの問題を回避することができます。

また、LLCまたはフルブリッジ位相シフトトポロジを使用する共振コンバータの重要なパラメータである、フェーズ調整によりより細かい周波数が可能になります。

この表は、170MHzで動作する製品の通常のタイマと高分解能タイマの違いを、デューティサイクルと周波数分解能の両方について示しています。

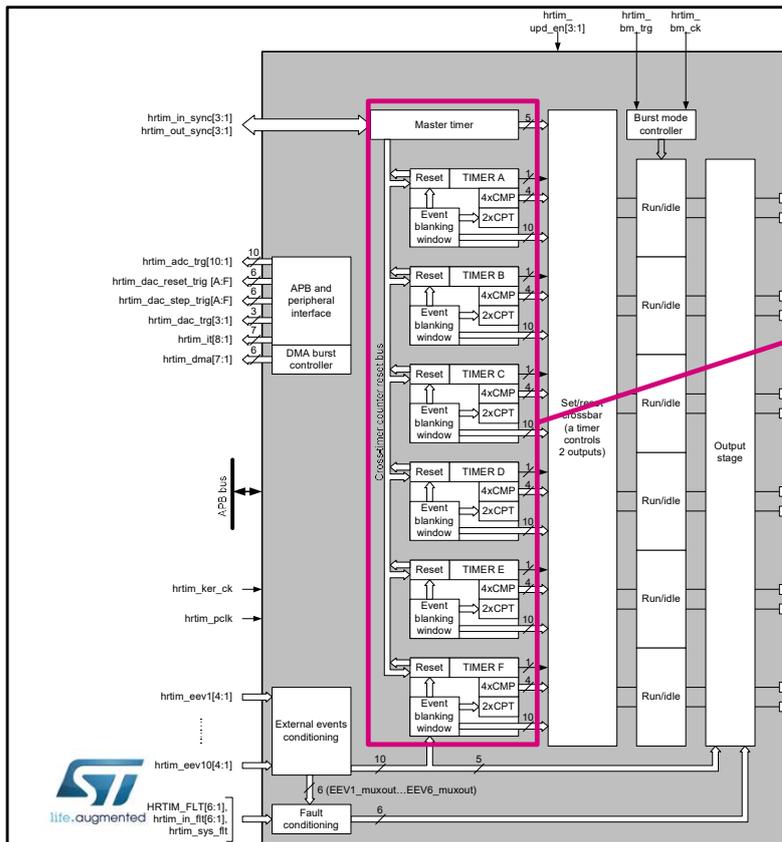
- 高分解能タイマは、遅延ロックループ(DLL)により高分解能信号を生成し、入力クロック周期を32分割する
- DLLは高分解能タイマの使用前にキャリブレーションを行う必要がある
- DLLは100MHz ~170MHzの周波数範囲でのみ動作
  - 分解能は入力周波数でスケールリング:100MHzで、312ピコ秒
- 高分解能は、あらゆる種類の波形調整(ピリオド、デューティサイクル、PWMからPWMへの位相調整)に対応しているが、通常の入力クロック(100MHz~170MHz)で実行される入力キャプチャには利用できない



高分解能を実現するには、タイマ入力クロック周期を32の分数ステップに分割できるディレイ・ロック・ループ(DLL)を使用します。このDLLは、高分解能タイマを使用する前にキャリブレーションが必要です。DLLは100~170MHzの間でのみ動作し、分解能は入力周波数に応じてスケールリングされるため、312psから184psまでの範囲であることに注意してください。

高分解能は、あらゆる種類の波形調整(周期、デューティサイクル、またはPWMからPWMへの位相調整)に利用できますが、通常の入力クロック(100~170MHz)で実行される入力キャプチャには利用できません。

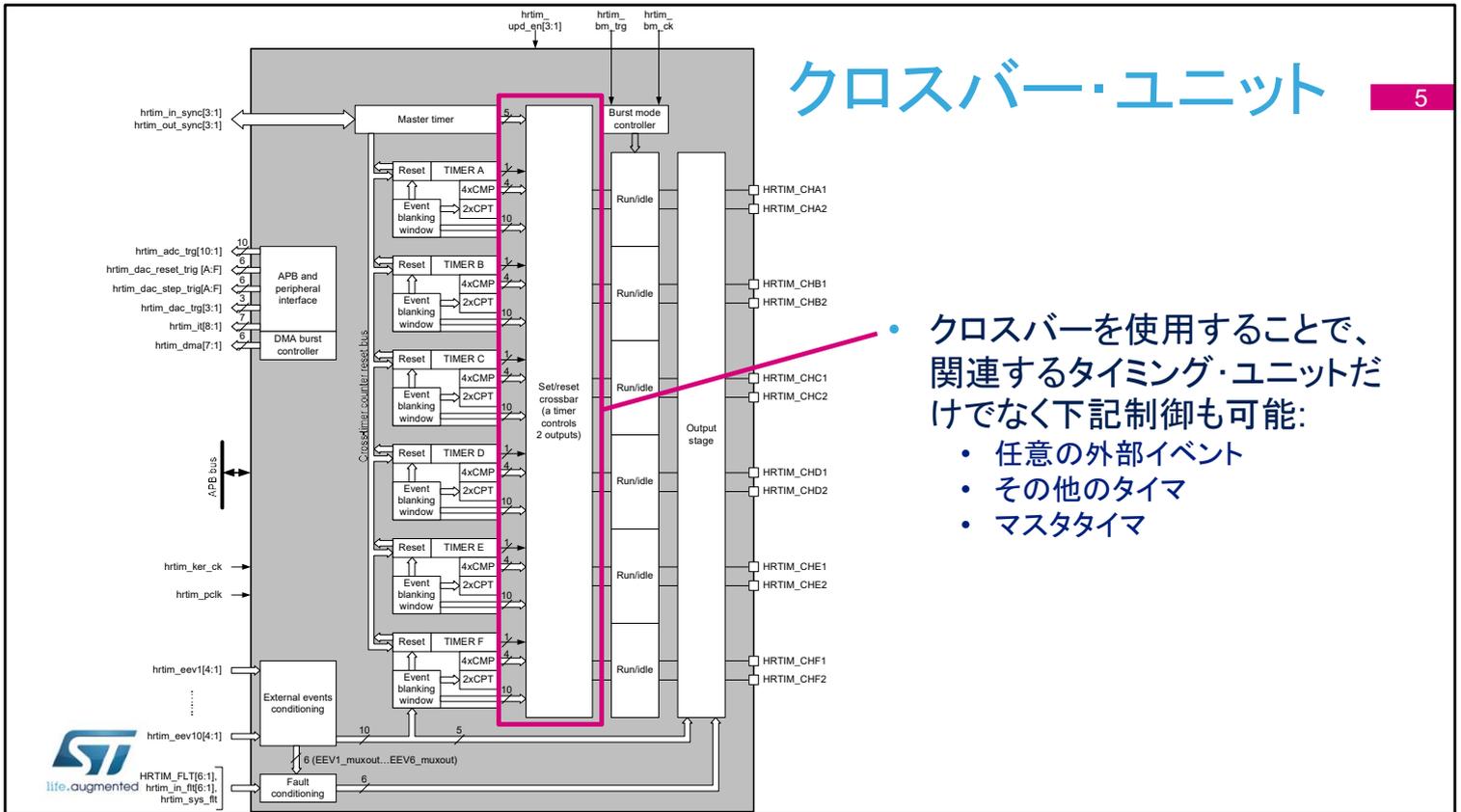
# 7つのカウンタから成っているタイマ



- 合計7つのタイムベースが利用可能
  - 6x16ビットアップカウンタ
  - 独立クロック・プリスケアラ
- 各タイマは、独立して使用することも、他のタイマと結合することも可能
- 24個のコンペアと10個のキャプチャ・ユニット

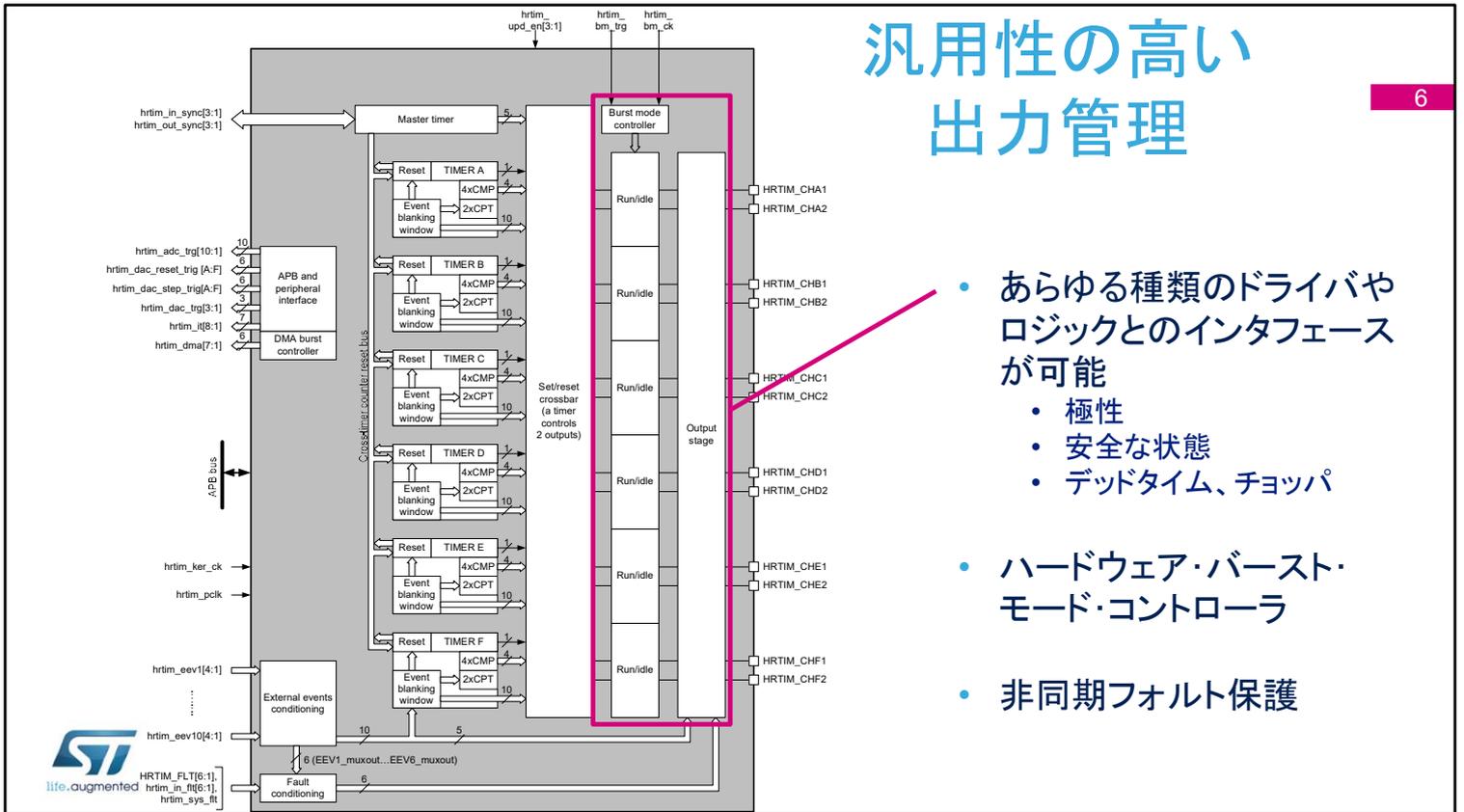
ここで、高分解能タイマアーキテクチャの概要を説明します。1つの高分解能タイマとは言っても、実際には7つの16ビット・カウンタで構成されており、それぞれが独立したクロック・プリスケアラを持ち、独立して使用することも同期させることもできます。合計28個のコンペアユニットと12個のキャプチャユニットを搭載しており、最大12個の出力を制御できます。

# クロスバー・ユニット



中央の大きなクロスバーユニットは、関連するタイミングユニット（例えば、出力CHA1のタイマA）だけでなく、外部イベント、他のタイミングユニットやマスタタイマによっても出力ペアを制御することができます。出力ごとに合計32個のセットイベントとリセットイベントが利用可能です。

## 汎用性の高い 出力管理



- あらゆる種類のドライバやロジックとのインターフェースが可能

- 極性
- 安全な状態
- デッドタイム、チョツパ

- ハードウェア・バースト・モード・コントローラ

- 非同期フォルト保護

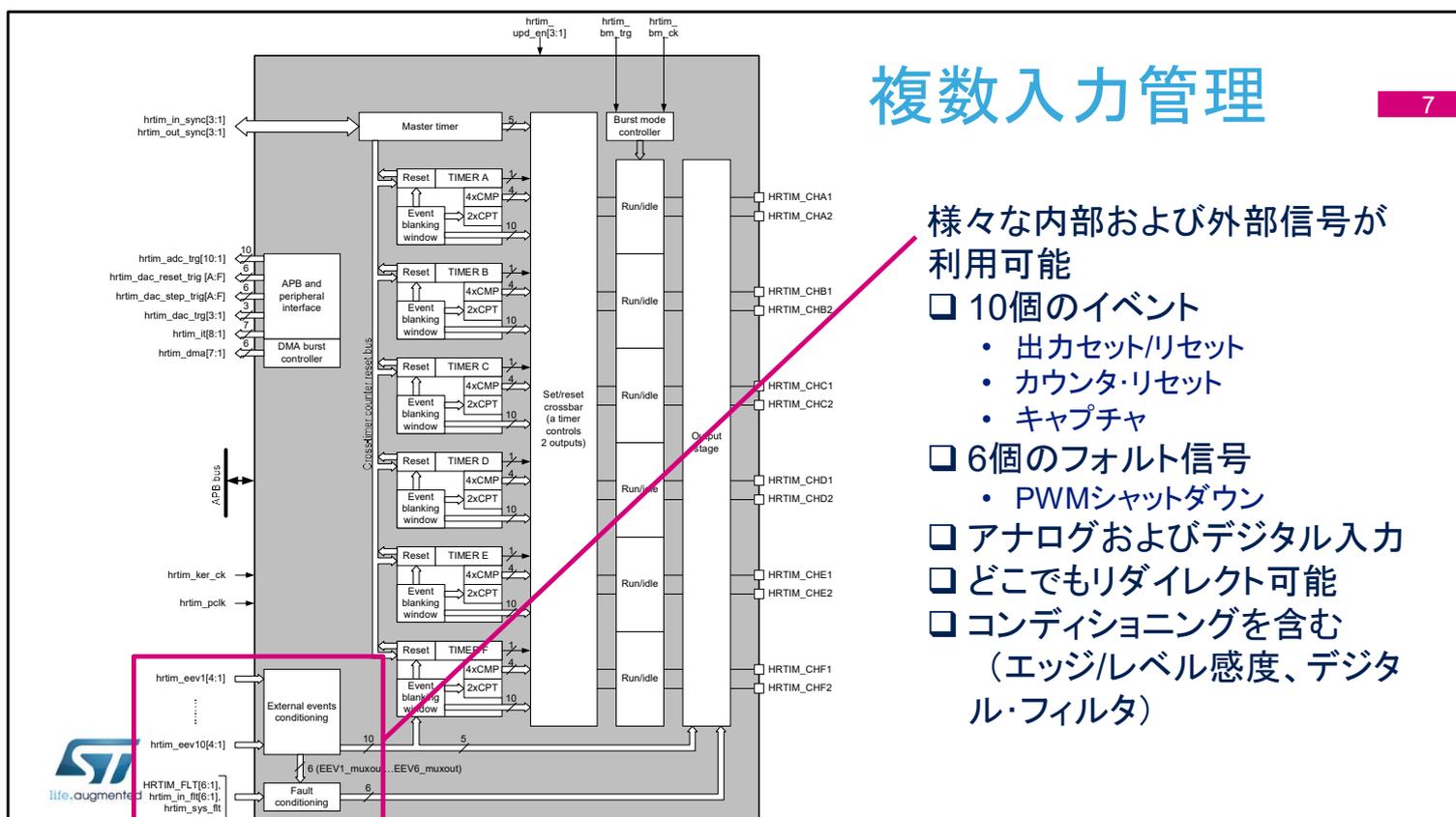
クロスバーの後には、あらゆる種類のゲートドライバとのインターフェース、出力極性、PWMアイドルおよびセーフステートレベルのプログラム、デッドタイムの挿入、およびチョツパ変調の追加が可能な多目的な出力管理機能が接続されます。

ハードウェア・バースト・モード・コントローラは、内蔵のパルス・スキップ機構により、軽負荷管理を容易にします。

また、システムクロックから独立した超高速非同期フォルト保護機能も備えています。

## 複数入力管理

7



様々な内部および外部信号が  
利用可能

- 10個のイベント
  - 出力セット/リセット
  - カウンタ・リセット
  - キャプチャ
- 6個のフォルト信号
  - PWMシャットダウン
- アナログおよびデジタル入力
- どこでもリダイレクト可能
- コンディショニングを含む  
(エッジレベル感度、デジタル・フィルタ)

高分解能タイマは、パワーステージを保護するための6つの故障信号に加えて、出力波形を動的に変更するための10の外部イベントを処理することができます。10個のイベントとは、外部イベント（入力）と内部イベント（通常はコンパレータから）から選択できます。

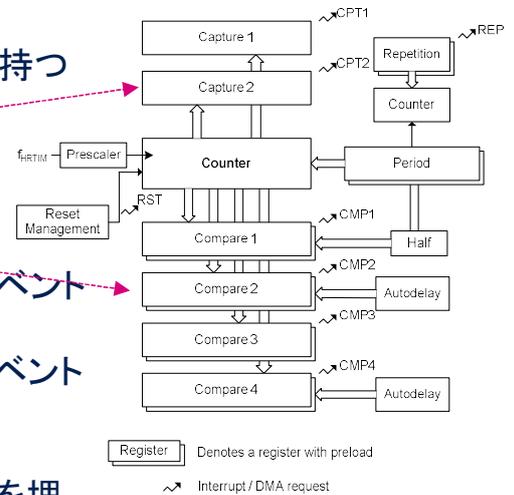
イベントにより、出力のセット/リセット、PWMカウンタのリセット、外部タイミングのキャプチャなどの動作が可能です。フォルト信号は、パワー・ステージを保護し、PWM出力をシャットダウンするためのものです。

高分解能タイマは、内部インタコネクトを介して他の内蔵タイマやDMA、A/Dコンバータ、D/Aコンバータとリンクしています。

# タイマA~Fタイミング・ユニット

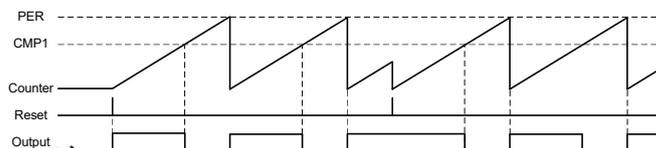
8

- 高分解能タイマは、6つの同一のタイミング・ユニットを持つ
  - プログラム可能な期間を持つ16ビットアップカウンタ
  - 2x16ビット・キャプチャレジスタ
  - 4x16ビット・コンペアレジスタ
- カウンタがコンペアに一致した場合にのみコンペア・イベントが生成  
複数のセット/リセットに対して、1つの期間に複数のイベントを生成することが可能
- 各ユニットは、2つの出力のためのすべての制御機能を埋め込み、最終的にスタンドアロンのタイマとして動作することが可能



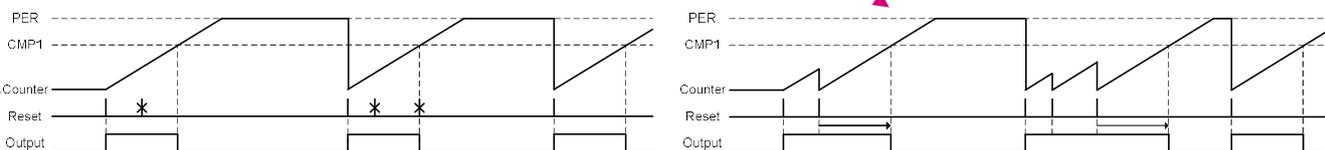
高分解能タイマの6つの同一のタイミングユニットのうちの1つを詳しく見てみます。  
これは16ビットのアップカウンタで構成されており、カウント期間を調整するためにプログラム可能なオーバーフロー値を備えています。  
4つの16ビットコンペアユニットと2つの16ビットキャプチャユニットがこのカウンタにリンクされており、それぞれ割り込みとDMA機能を備えています。  
カウンタがコンペア値と完全に一致すると、コンペアイベントが生成されます。したがって、1つのピリオドに複数のコンペアイベントを生成して、PWMサイクルごとに複数回の出力設定とリセットを行うことができます。  
このユニットは、一対の出力のすべての制御機能を内蔵しており、最終的には独立したタイマとして動作します。しかし、これらの出力は他のタイマによっても制御することができます。

- 継続(フリーラン)周期またはリセット・イベントでの再開始
  - 標準PWMモード: 固定周波数、ピリオド・レジスタ(ロールオーバー)で設定
  - リセット・イベントを使用した可変周波数PWM



- シングルショット・モード

- 再トリガ不可: リセット・イベントはPERイベントの前に破棄
- 再トリガ可能: カウンタはいつでもリセット可能



アップカウンタは3つのモードで動作できます。

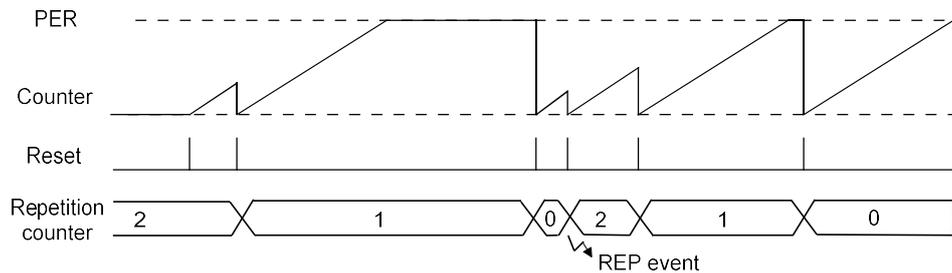
連続モード(フリーランモードとも呼ばれる)では、カウンタはピリオドレジスタでプログラムされた値を超えるとゼロにロールオーバーされ、外部イベントによってリセットされた場合はカウントを再開します。これは、固定周波数でコンバータまたは外部同期可変周波数コンバータに使用される最も一般的なモードです。

シングルショットモードでは、カウンタはリセットイベントによって開始され、HRTIM\_PERxRレジスタに設定されたピリオド値に達すると停止します。ここでは、2つのオプションを使用できます。

再トリガが不可のモードでは、カウンタリセットイベントがカウントフェーズの終了前に発生した場合は、カウンタリセットイベントが破棄されます。通常、これは外部からトリガされるパルスが常に同じパルス幅であることを確認する場合です。

再トリガが可能なモードでは、カウンタはいつでもリセットできます。この場合、外部からトリガされるパルスは、複数のトリガを十分に近づけて受信すると、パルス幅が拡張される可能性があります。

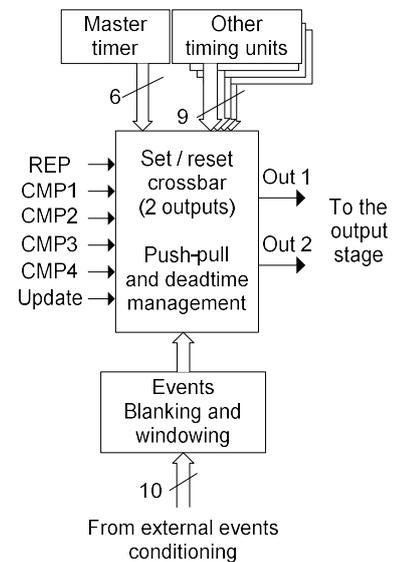
- スイッチング周波数と割り込み周波数を切り離して、CPUをオフロードできる
  - 標準的なSTM32タイマと同様の概念
- タイマがリセットされ、シングルショット・モードで使用することも可能



各タイミングユニットには、標準的なSTM32タイマで利用可能なものと同様の繰り返しカウンタが含まれています。スイッチング周波数と割り込み周波数をデカップリングすることで、CPUのオフロードを可能にします。カウンタのロールオーバー割り込みは、1回目、2回目、3回目、最大256回目のPWM周期ごとに発行することができます。この機能は、連続モードとシングルショットモードの両方で利用できます。この場合、繰り返しカウンタはリセットイベントごとに減少します。

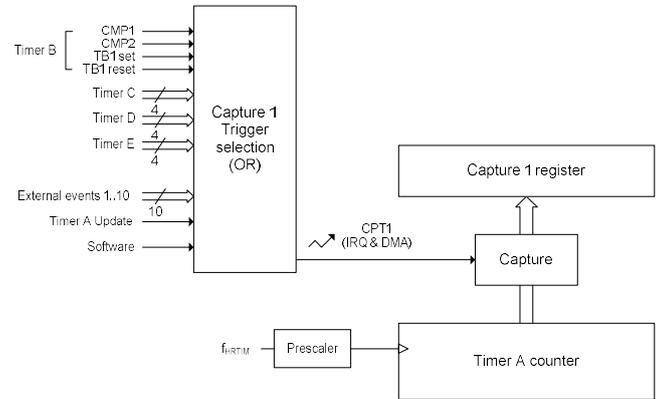
# クロスバーのセット/リセット

- セット/リセット・イベントは、極性プログラミングに関係なく、アクティブ/非アクティブ状態(スイッチオンまたはオフ)への出力遷移に対応
- 各タイミング・ユニットには、2つの出力用のクロスバー・プログラミング・レジスタが含まれる
  - 2x32ビット・レジスタ/セットおよびリセットの出力ごと
- 1つのピリオド内の複数の出力セット/リセットイベントに対して、最大32のイベントを同時に選択可能
- プログラミング・レジスタはプリロードされており、他のレジスタと同期して更新出来る
  - タイマ操作中にセット/リセット・イベントをオンザフライで変更可能



クロスバーは、セットイベントとリセットイベントを組み合わせて、極性プログラミングに関係なく出力波形を構築します。イベントは、タイミングユニット自体から、他のタイミングユニットから、マスタタイマから、または外部イベントから来ることができます。タイミングユニットには、出力ごとに2つのクロスバー・プログラミング・レジスタがあり、1つはセット・イベントを定義し、もう1つはリセット・イベントを定義します。最大32個のイベントを同時に選択することができます。これにより、周期ごとに複数のセット/リセットイベントで周期的な波形を構築することができます。プログラミング・レジスタはプリロード・レジスタでシャドウイングされているため、異常な過渡波形を発生させることなく、オンザフライで波形を変更することができます。

- 各タイミング・ユニットには2つのキャプチャレジスタが含まれる
- 最大28のイベントを同時に選択可能
  - 外部イベント、EXTEVNT1.10(10イベント)
  - 高分解能タイマの他のすべてのタイミング・ユニット(タイマAとタイマBからFまで):1、2、出力1セット/リセット・イベント(16イベント)を比較
  - タイミング・ユニットの更新とソフトウェア・キャプチャイベント
- キャプチャされた値は、外部タイミングを決定するために使われ、自動遅延モードに使用



コンペアユニットと並行して、各タイマには2つのキャプチャユニットも内蔵されています。キャプチャは、現在のカウンタ値からキャプチャレジスタへの転送をトリガします。これは、外部タイミングを決定したり、次のスライドで説明する自動遅延モードのために有用です。一般的には、電流コンパレータがトリップしたときにPWMパルスが終了するようなサイクル-バイ-サイクルで電流制御されたコンバータの実効デューティサイクルを測定する可能性を提供しています。

キャプチャトリガは、外部イベント、隣接するタイミングユニット、隣接する出力波形、更新イベント、ソフトウェア・イベントの28のソースから選択できます。複数のトリガソースを同時に有効にすることも可能です。

- 50%デューティ・サイクルPWMを生成する必要がある場合に便利
  - 通常、共振コンバータでは、制御ループにより動作周波数制が制御され、デューティ・サイクルは50%に維持する必要がある
- ピリオド・レジスタへの書き込みアクセスにより、コンペア1の値が自動的に更新
  - 通常、コンペア1のマッチ・イベントはPWM出力をセット/リセットするために使用
  - ユーザはアクセスできない(CMP1レジスタの内容は影響を受けない)
- 主に連続モードでの固定周波数動作で意味を持つが、PERレジスタにアクセスする必要がある限り、他のどのモードでも使用可能



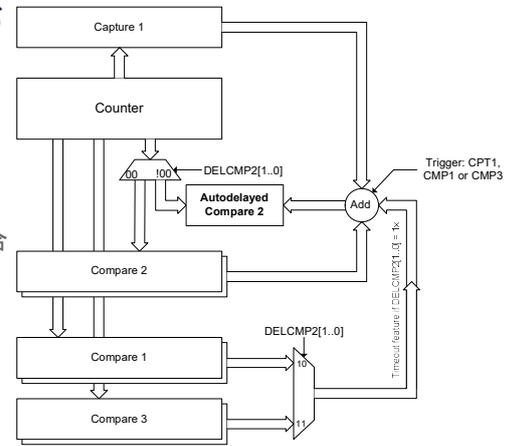
ハーフモードは、可変周波数50%デューティサイクルPWM波形を生成する必要がある場合に、計算負荷を軽減できる機能です。これは一般的に共振コンバータの場合で、デューティサイクルを50%に維持する必要がある間、制御ループによって動作周波数が連続的に調整されます。

ハーフモードの動作原理は、ピリオドレジスタへの書き込みアクセスで、ピリオド値の半分の値を計算されコンペア1レジスタへ更新になることです。

ピリオドイベントに設定されたPWM信号とコンペア1の一致時に再セットされたPWM信号を考えてみましょう。新しいピリオド値がピリオドレジスタに書き込まれるとすぐに、コンペア1の値もピリオドの半分の値に更新されます。

これは特に連続モードの固定周波数動作に便利ですが、ピリオドレジスタにアクセスする必要がある限り、他のモードでも使用できます。

- プログラム可能な遅延を伴うキャプチャ・イベントまたはタイムアウト後に、出力を変更可能
- 外部イベント受信タイミング(キャプチャ・レジスタ)に基づいて、リアルタイムのコンペア値を計算
  - コンペア・レジスタは、予想されるイベントと遅延を保持
  - コンペア・イベントは、以下を禁止
    - キャプチャが発生
    - タイムアウト・モードが有効になっている場合、キャプチャが発生しない場合は、コンペア1またはコンペア3によってキャプチャされる
- 新たなキャプチャが可能
  - 自動遅延イベントが発生した場合
  - カウンタのリセットまたはロールオーバー後



自動遅延モードでは、内部タイムベースに関連するだけでなく、外部イベントを参照してタイミングの設置/リセットを行うことができます。タイムアウトメカニズムは、外部イベントが存在しないか消滅したときにデフォルト波形を確保できます。

この高分解能タイマは、外部イベントの到着するとすぐに、新しいコンペア値をリアルタイムで計算し、イベントが到着するとすぐにキャプチャしレジスタに書込みます。

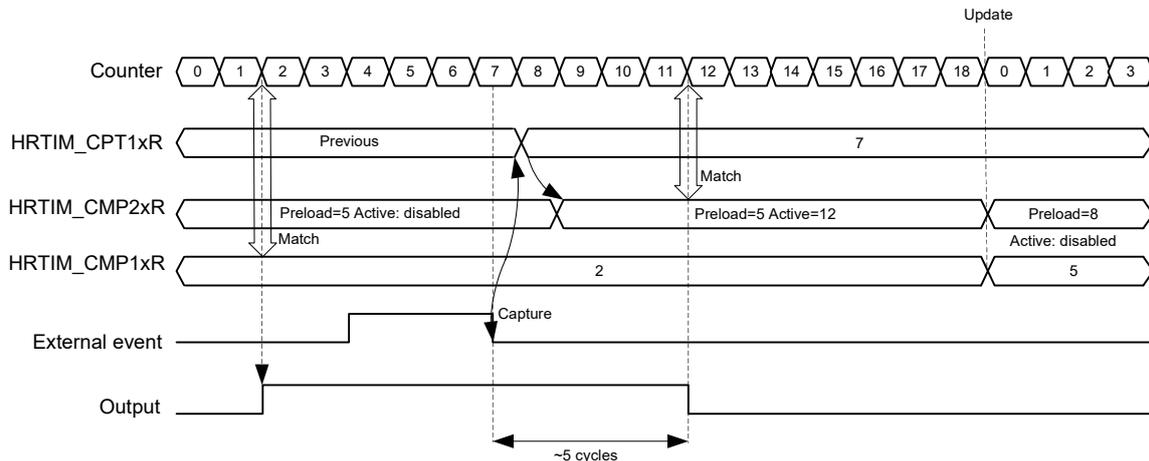
予想されるイベントとの遅延は比較レジスタにプログラムされますが、コンペアイベントはキャプチャがトリガされるまで禁止されます。

タイムアウトの安全機構が有効な場合、カウンターがコンペア1またはコンペア3の値で定義されたタイムアウト閾値と等しくなると、キャプチャは強制的に実行されます。

自動遅延イベントが発生した場合、または新しいピリオドが開始されると、新しいキャプチャが可能になります。

# 自動遅延アプリケーションの例

- この例では、出力波形は以下のように定義
  - コンペア1マッチにセット(通常のコンペア・モード)
  - 外部イベントのエッジの立下りエッジ後、4サイクルでコンペア2(自動遅延モード)でリセット



このスライドは、自動遅延モードの実用的な使用例を示しています。要件は、以下のような波形を構築することです。

- タイミングとカウンタの開始値を固定した値を指定し、出力はコンペア1の一致に設定する必要があります。(ここでは2クロックサイクル)
- 外部イベントの立下りエッジの後、5サイクル後に出力をリセットする必要があります。

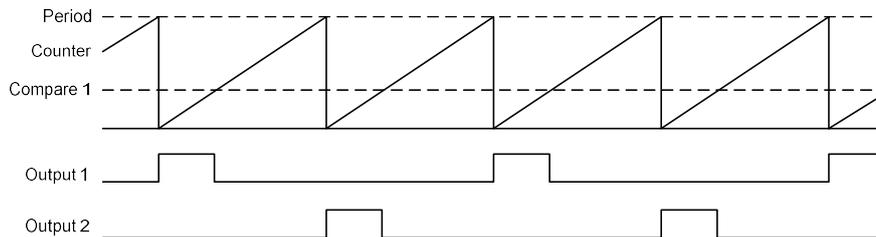
出力セットは、カウンタが2で、HRTIM\_CMP1Rレジスタ値と一致する場合に発生します。

HRTIM\_CMP2Rレジスタは5に等しくなりますが、外部イベントの下端が発生するまで無視されます。現在のカウンタ値は7です。

HRTIM\_CPT1Rレジスタにキャプチャされ、HRTIM\_CMP2Rプリロード値に追加されます。これにより、有効なコンペア2の値は5+7で12になります。

カウンタがこのコンペア2の値と一致すると、出力リセットイベントが最終的に生成され、外部イベントのエッジが下がった後に5サイクルが生成されます。この図の0.5サイクルの不確実性は、キャプチャ信号の再同期による通常の待ち時間です。

- プッシュプル・コンバータ、共振コンバータ、..
- 1つの出力が一度にアクティブになり、他の出力はアイドル状態になる
  - 2つの出力のクロスバーは、完全なバランスのために同じようにプログラムする必要があるが、必須ではない（この機能は他の目的にも使用可能）
  - ロールオーバー付き連続モードでのみ使用可能
    - 例:ピリオドに設定し、コンペア1の一致でリセット

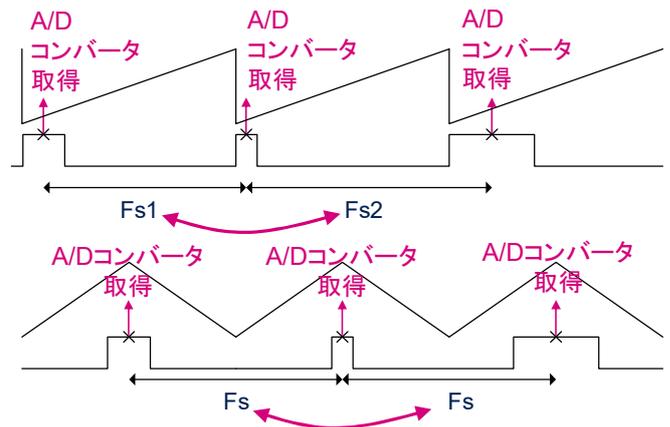


高分解能タイマのプッシュプルモードは、プッシュプルおよび共振コンバータの管理を簡素化します。

タイミングユニットの2つの出力は、2つのPWM出力間のバランスを維持するために、交互に有効化されアイドル状態になります。この図では、出力1と出力2に2つの同一の波形がプログラムされています。プッシュプル回路は、PWMデューティサイクルを設定するために単一のコンペア値を使用して信号を構築できるように、2サイクルごとに出力をディセーブルにします。これはプッシュプルを使用せずとも設定可能ですが、それだと他の2つのコンペアレジスタとCPU負荷が大きくなってしまいます。

最後に、信号をアンバランスにして、非対称波形を生成することができることに注意する必要があります。例えば出力1のコンペア1を使用するPWMと出力2のコンペア2を使用してPWM生成する場合です。

- 電源やモータ制御アプリケーションで、以下の操作を行う場合に便利
  - 2つの3相ブラシレス・モータ
  - 3つのフルブリッジDCモータまたはステッパ・モータ
- A/Dコンバータ・サンプリングを簡素化
  - サンプリング周波数を一定
  - パルスの中央でのサンプリング



高分解能タイマのカウンタはアップダウンカウントで動作します。このモードは、固定のスイッチング周波数で、パワーコンバータとモータ制御アプリケーションに利点があります。高分解能タイマは、最大2つの3相ブラシレスモータと、ステッパやDCモータを駆動するための3つのフルブリッジコンバータを制御することができます。

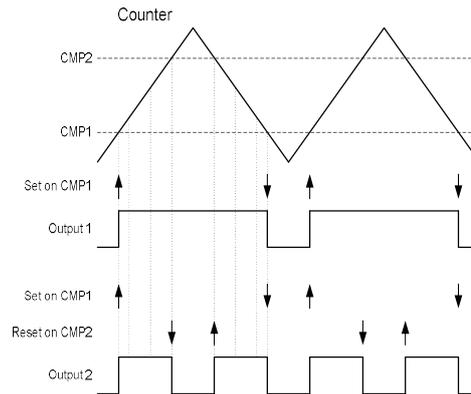
アップダウンモードではA/Dコンバータのサンプリングの実装が単純化されます。最初は、出力パルスがカウントパターンの上部(カウントの「クレスト(山)」とも呼ばれる)に対称であるため、一定のサンプリング周期が可能です。これは図の下部に示され、サンプリング周波数 $F_{s1}$ は一方のサイクルから他方のサイクルまで一定であり、上側ではアップオンスカウントモードを使用してパルス幅によって変化していることがわかります。

多くのコンバータにとって、理想的なA/Dコンバータのサンプリングポイントは出力パルスの中央にあり、出力電流または電圧のリップルによる変換誤差を回避します。

このA/Dコンバータトリガポイントの位置決めには、アップカウントモードでの計算が必要です。アップ/ダウンカウントモードでは、理想的なトリガポイントが常にクレストに位置するため、A/Dコンバータ関連の計算負荷は軽減され、必要なくなります。

# アップ/ダウン・モードのプログラミング

- UDMビットにより、アップのみ、およびアップ/ダウンモードの選択が可能
- クロスバーのセット/リセットのプログラミングは異なる
  - HRTIM\_SETxyRは、アップカウント中に出力をセットし、ダウンカウント中にリセット
  - HRTIM\_RSTxyRは、アップカウント中に出力をリセットし、ダウンカウント中にセット



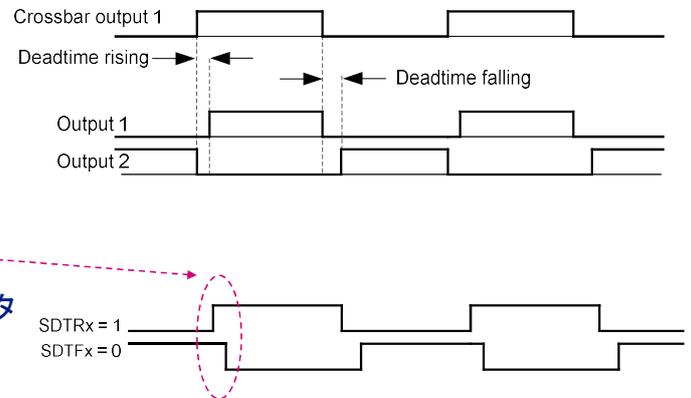
UDMビットは、アップ/ダウンモードを有効にします。

高分解能タイマ機能のほとんどは、自動遅延モードとバランスアイドルモードを除き、アップ/ダウンモードで使用できます。高分解能タイマのプログラミングは、クロスバープログラミングとほとんど異なります。

HRTIM\_SETxyRレジスタで選択されたイベントは、アップカウント時の出力セットとダウンカウント時の出力リセットの両方をコーディングしています。これにより、出力1の図に示すように、カウント期間を中心としたパルスが可能になります。

HRTIM\_RESETxyRレジスタで選択されたイベントは、アップカウント中の出力リセットとダウンカウント中の出力セットの両方をコーディングしています。これにより、出力2の図に示すように、より複雑な波形を作成できます。

- ハーフブリッジ、フルブリッジ、3相インバータがある場合、...
- 多用途で安全なデッドタイム設定
  - デッドタイムは、立ち上がりエッジと下りエッジの両方で調整可能(非対称デッドタイム)
  - 制御されたオーバーラップに対して負のデッドタイムを持つことが可能
  - デッドタイムレジスタはプリロードされており、ランタイム中に更新可能
    - 通常、適応制御のため、効率を最適化
  - 追加の安全性のために、デッドタイム符号、または値の書き込みを保護可能

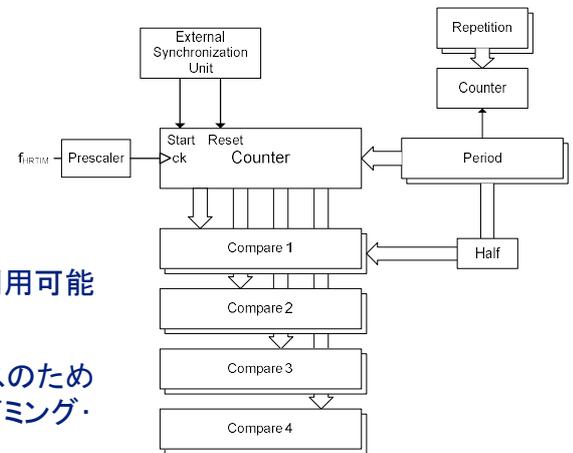


クロスバーの後にデッドタイムを挿入して、1つのリファレンスになるPWM波形から2つの出力に補完的な信号を生成することができます。これにより、2つの電源スイッチがオフになるデッドタイムを挿入することで、フルブリッジや3相インバータを含むハーフブリッジに基づくすべてのトポロジを安全に駆動することができます。これにより、クロスコンダクトとシュートスルーの問題を回避できます。

デッドタイム値は、立ち上がりエッジと下りエッジの両方に対して個別に調整でき、任意の種類ドライバまたは伝播遅延に対応できます。非常に特殊なケースでは、負のデッドタイムをプログラムし、いくつかの制御出力をオーバーラップさせることも可能です。デッドタイムレジスタはプリロードされているので、スプリアス遷移のリスクなしにタイミングをリアルタイムで適応させることができます。これは通常、コンバータの効率を最適化するための適応制御に使用されます。

最後に、機能安全のために、特定の制御ビットで値またはデッドタイムの兆候を保護する記述が可能です。

- タイミング・ユニットと同じアーキテクチャ、シンプルな構成
  - 直接関連付けられた出力はない
    - クロスバール・ユニットや出力関連制御なし
  - キャプチャ・ユニットなし、自動遅延モード、外部イベント管理
- 主にマルチタイマ構成で6つのタイミング・ユニットの同期を目的としている
  - マスタからの6つのイベントは、すべてのタイミング・ユニットで利用可能
  - カウンタをリセット、出力をセット/リセットすることが可能
  - また、他の高分解能タイマ(内部または外部)とのインタフェースのための同期開始と同期ロジックプログラミングのためのすべてのタイミング・ユニットからのカウンタ・イネーブル・ビットを保持



マスタタイマは同じアーキテクチャを使用して、6つのタイミングユニットが付属しています。直接関連付けられた出力やキャプチャ、自動遅延モード、外部イベント管理が存在しないため、プログラミングは簡単です。

マスタタイマは、主に2つ以上の出力を必要とするコンバータ用の6つのタイミングユニットを同期させることを目的としています。マスタからの6つのイベント(ピリオド、コンペア1~4、グローバル同期)は、すべてのタイミングユニットで利用可能であり、出力をセット/リセットしたりタイマをリセットするために使用することができます。

マスタタイマは、すべてのタイミングユニットからのカウンタ有効化ビットも保持します。これにより、一回の書込みアクセスですべてのタイマを同期して開始できます。

最後に、複数のMCUシステムの場合に、他の高分解能タイマインスタンスとのインタフェース用のオフチップ同期ロジックプログラミングが埋め込まれます。

- 一般的なユースケース: サイクル-バイ-サイクルの電流制御、ゼロ電流検出、...
- 10個の信号のセット(30のソース中では、次の用途に使用可能
  - 出力をセットまたはリセット
  - カウンタのリセット
  - トリガ
    - バーストモード開始
    - キャプチャ、自動遅延比較
    - A/Dコンバータ変換開始
    - 遅延保護
- 10のイベントはすべてのタイミング・ユニットで利用可能
  - コンディショニングはイベントごと、フィルタリングは各タイミング・ユニットで

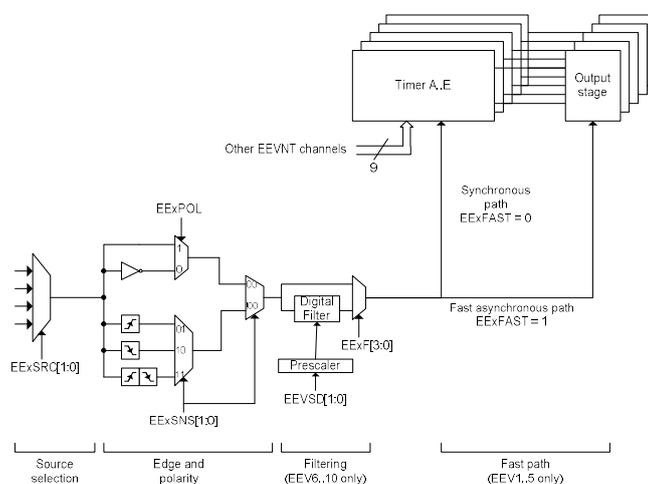


外部イベントは高分解能タイマで重要な役割を果たします。通常、波形を動的に変更し、サイクル-バイ-サイクルの電流制御を実装するか、ゼロ電流検出後にカウンタを再起動したりします。

10個の外部イベント(30個のオンチップまたは外部ソースから選択可能)を使用して、出力のセット、リセット、またはトグル、カウンタのリセット、バーストモードコントローラ、キャプチャと自動遅延比較、A/Dコンバータの変換開始、いくつかの保護などの複数の機能をトリガします。

10個の外部イベントは、すべてのタイミングユニットで使用できます。コンディショニング(通常はエッジの感度)はグローバルに行われますが、各タイマに異なるイベントフィルタリングスキームを適用できます。

- 外部条件によって決定（インタフェース回路、ノイズや振動など...）
- ソース選択
- プログラム可能なエッジまたはレベル感度
  - レベルが敏感な場合、レベルがアクティブである限り、イベントは連続的に生成
- デジタル・フィルタ（外部イベント6~10のみ）



life.augmented

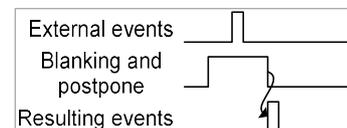
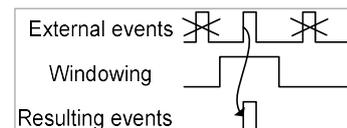
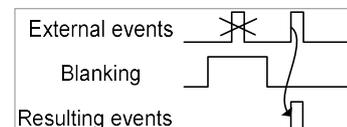
外部イベント調整回路は、外部インタフェースの種類や、着信した信号に存在するノイズやグリッチの量に応じて構成される予備信号検出のステージです。

最初のステージは、ソースを選択するための4対1のマルチプレクサで、通常は入力ピンまたは内蔵コンパレータになります。

その後に、エッジまたはレベル感度の定義が続きます。レベル依存オプションを選択した場合、レベルがアクティブである限り外部イベントが継続的に発行されます。

最後に、プログラム可能なデジタルフィルタステージにより、フィルタ伝播遅延による応答遅延が高くなりますが、スプリアス遷移を除去できます。この機能は、外部イベント6~10でのみ使用できます。

- アクティブなイベントは有効なイベントである必要はない！
  - 例: ダイオードリカバリ電流によるスプリアス過電流スパイク
- 各タイミング・ユニットでは、必要に応じて特定のフィルタリング方式を各外部イベントに適用可能
- ブランキング (定義された時間中に外部イベントをマスク)
  - 12ブランキング・オプション: タイミング・ユニット内で4個、他のタイマで8個
- ウィンドウ (範囲内の外部イベントを有効)
  - 3つのウィンドウ・オプション: タイミング・ユニット内で2個、他のタイマで1個
- イベント延期、またはラッチ、タイムアウト可能



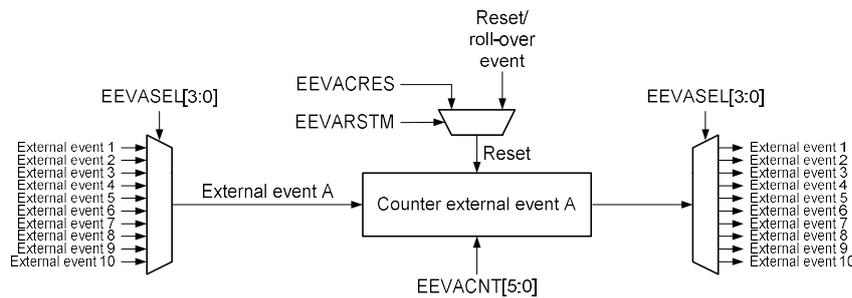
多くの場合、条件付けステージから発生するアクティブイベントは、必ずしも有効なイベントとは限りません。これは一般的には電流のフィードバックの場合に該当します。自由なダイオードリカバリ電流は、スプリアス過電流検出の原因となる可能性があります。したがって、特定のタイミング単位で使用される外部イベントに特定のフィルタリングスキームを適用する必要があります。

3つのフィルタリングオプションを提案することができます。ブランキングモードは、タイミングユニット自体内で定義された定義済みの時間枠の間に外部イベントをマスクするか、他のタイミングユニットを使用して構成されます。これは通常、先行エッジブランキングの場合に当てはまります。ウィンドウモードでは、外部イベントは、指定した期間だけ、タイミングユニット自体または他のタイミングユニットを使用して再定義されます。イベント延期モードでは、イベントが特定の期間内に発生した場合のみ、イベントを確認してラッチし、この期間の終わりまで遅延させることができます。

## 外部イベント・カウンタ (1/2)

24

- イベントベースのフィルタリング:外部イベントは、有効と見なされる前に所定の回数発生する必要がある
  - 一般的なユースケース:フライバック・コンバータ バレースキップ・モード
- 各タイマ・ユニットには、10個のイベントのいずれかに対応した外部イベント・カウンタがある
- イベントは、N回カウントされると生成(N=1 .. 32)



また、発生回数に基づいてイベントをフィルタ処理することもできます。これは通常、フライバックコンバータでバレースキップモードの場合に良くみられます。新しい周期は、振動(バレー)の数を与えた後にのみ開始される必要があります。

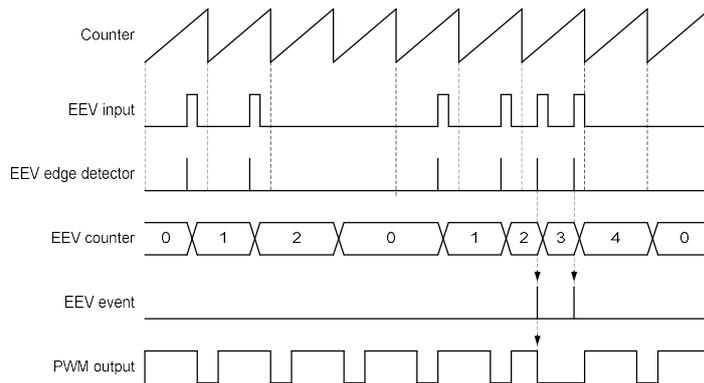
この場合、外部イベントカウンタは、1から32までのプログラム可能な回数の発生後にのみイベントを考慮に入れます。

各タイマユニットには、10個の使用可能な外部イベントのいずれかに適用できる独自の外部イベントカウンタがあります。

## 外部イベント・カウンタ (2/2)

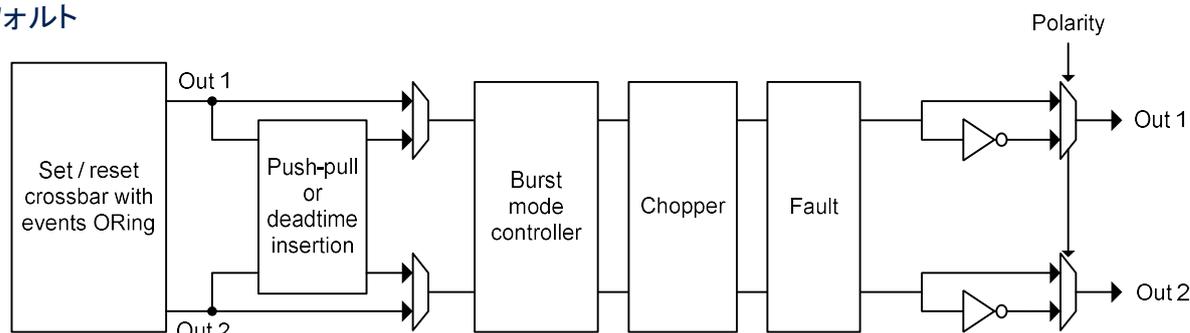
25

- 外部イベント・カウンタには、次の2つの動作モードがある
  - 即時モード:期間中にN個の連続したイベントが発生したときに生成されるイベント
    - 新しいPWM期間ごとにイベント・カウンタがリセット
  - 累積モード:イベントは、連続する複数の期間に少なくとも1回発生する必要がある
    - カウンタは、直前のPWM期間にイベントが表示されなかった場合にのみリセット



さらに、外部イベントカウンタには2つの動作モードがあります。即時モードでは、N個の連続した外部イベントが1つの期間内に発生すると、すぐにイベントが生成されます。イベントカウンタは、現在のPWMピリオドの終了時にリセットされます。このモードは、たとえばバレースキップを実装するために使用できます。累積モードでは、期間の終了時に外部イベントカウンタはリセットされませんが、期間内に外部イベントがない場合に限られます。このイベントは、EEV入力の3つの立ち上がりエッジの後に、図の右側に示すように、連続した複数の期間に発生した場合にのみ生成されます。逆に図の左側では、3番目のイベントを持たない連続イベントが2つしかなかったので、外部イベントカウンタは第3ピリオドの後にリセットされます。

- 各出力には3つの個別の設定ビットがある
  - イネーブル(OEN)、ディセーブル(ODIS)、およびディセーブル・ステータス(ODS:フォルトまたはアイドル)
- 3状態
  - 実行
  - アイドル(開始時またはバースト保護および遅延保護中)
  - フォルト



10個の高分解能タイマ出力にはそれぞれに3つの構成ビットがあります。出力はOENビットを使用して有効にされ、ODISビットを使用して無効になります。すべてのビットは、1回の書込みアクセスで複数の出力を有効または無効にすることができる単一のレジスタにグループ化されています。フォルト検出のためにディセーブルステータス・ビットでODS出力が無効になったかどうかを示します。

下の図は、あるタイミングユニットの出力ステージ全体の概要です。セット/リセットのクロスバーに続いて、出力1および出力2の基準信号は、まずプッシュプルとデッドタイム挿入ユニットで変更することができます。

プッシュ・プル・モードでは、出力1と出力2が実行またはアイドル状態の場合があります。デッドタイムが挿入されると、出力1信号は相補信号を構築するためのリファレンスとして機能し、出力2信号は破棄されます。

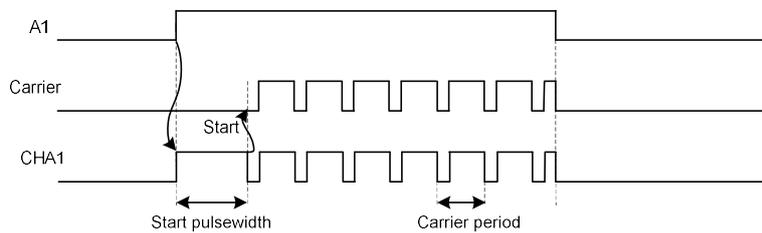
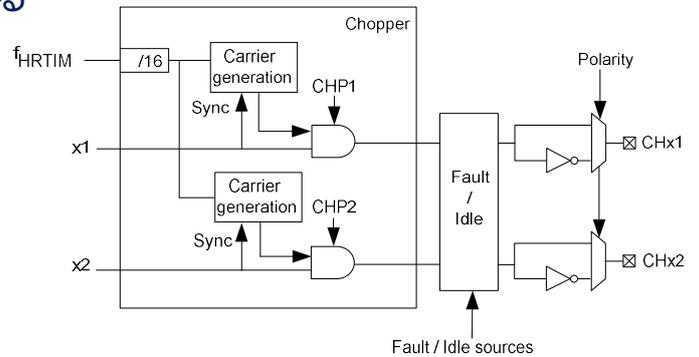
バーストモードコントローラでは、両方の出力を自動的に無効にし、一定期間再び有効にすることができます。

チョップユニットは、アクティブなPWM波形の上にキャリア信号を重ね合わせることができます。

最後に、フォルトステージでは、電源スイッチを保護するために出力を完全に無効にすることができます。

極性は最後にプログラムされます。高分解能タイマの波形全体は、極性が適用される前に、外部ゲートドライバやインタフェース感度とは無関係に、アクティブ/非アクティブスイッチの観点から単に推論することによってプログラムすることができます。

- グルーロジックなしで絶縁変圧器を駆動することが可能
- 各タイマ用にプログラムされたパラメータ
  - 16周波数 (1.56MHz ~ 25MHz)
  - デューティ・サイクル (0/8 ~ 7/8)
  - パルス長 (40ns ~ 630ns)



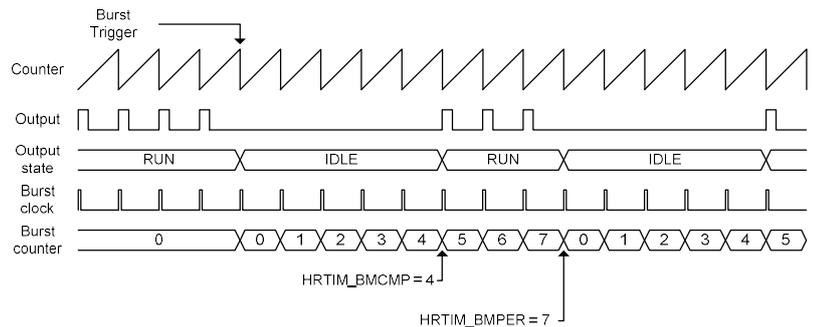
チョッパユニットは、アクティブなPWM信号の上にプログラム可能なキャリア波形を重ね合わせます。キャリアジェネレータは、着信パルスによって開始され、ANDゲートによって入力信号に追加されます。

これにより、外部のグルーロジックを追加することなく、アイソレーション・トランス・ドライバとのインタフェイスを可能にします。

キャリア波形は、3つのパラメータでプログラムすることができます。

- 変調周波数は1.56~25MHzです
- 1パルス長を調整し、セトリング時間を調整します。
- デューティサイクルを設定して、サステイン電流を設定する。

- 軽量負荷動作中に、コンバータに関するタイマの数に関係なく、自動的にバーストモード動作を処理
- 複数の出力を同時に無効化
  - プログラム可能なアイドル状態
  - エントリ時にデッドタイムを挿入することが可能
  - バースト長さや周期のプログラムが可能
  - シングルショット/連続モード
  - 32のイベントで開始可能
  - 複数のバーストクロック・オプション



バーストモード動作は、軽負荷で動作する電力コンバータで一般的に使用されます。バーストモードコントローラは、ハードウェアによってアイドル状態と実行状態で交互に出力することができ、プログラム可能な周期と長さのスイッチング期間をスキップ出来ます。

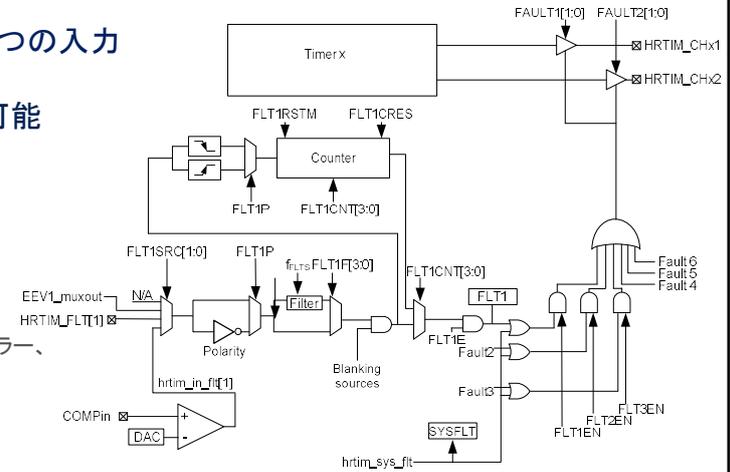
バーストモードコントローラは、複数のタイマを並列に処理できます。出力は同時に無効になり、プログラム可能なアイドル状態と、デッドタイム違反を回避するために、バーストモードエントリにデッドタイムが挿入される可能性があります。

バースト長は、連続モードでバーストモードが有効になっている場合の繰り返し期間と同様にプログラム可能です。

バーストモードは32のイベントで開始でき、タイマロールオーバーイベントから来るか、または独立したユーザープログラム可能期間(400MHzクロックに基づく)から来る複数のバーストクロックオプションがあります。

この例では、バーストリガが到着すると、PWMは8サイクルごとに3周期アクティブになり、パルスは5周期スキップされます。バーストモードコントローラカウンタは、各タイマロールオーバーイベントでクロックされ、インクリメントされます。

- PWM出力をシャットダウンし、再出力にはSWで要求
- ビット、極性、およびデジタル・フィルタを有効にした6つの入力
- 複数のタイマに対し、1つの入力をアクティブにする可能  
(結合タイマを必要とするコンバータ向け)
  - 各タイマは、任意の(複数の)入力を選択可能
- 入力トリガ・フォルト
  - 機能安全のためのHW保護
    - クロック・セキュリティ・システム、SRAM/パリティ・チェック、ECCエラー、Cortex-M4ロックアップ信号、PVD検出
  - すべてのコンバータを同時にシャットダウン可能なグローバル出力ディセーブル・レジスタ



フォルト(障害)管理ユニットはPWM出力をシャットダウンし、ユーザー定義の安全状態を非同期的に強制します。出力を再起動するには、ソフトウェアアクションが必要です。

合計6つの入力があり、それぞれプログラム可能な極性、イネーブルビットおよびデジタルフィルタを備えています。

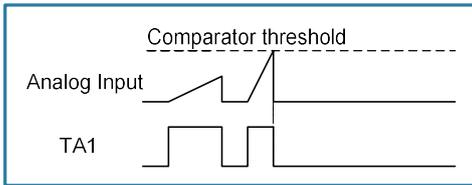
複数の同期出力を必要とするコンバータでは、複数のタイマに対して1つの障害入力を実行させることが可能です。逆に、複数の障害入力をマージして、単一のタイミングユニットを保護できます。

障害は、デジタル入力、内蔵コンパレータ(一部のチャンネルのみ)、システムエラーなど、いくつかのソースから発生します。システムエラーは、クロックセキュリティシステムエラー、SRAM/パリティエラー、Cortex-M4コアロックアップ、PVD検出による潜在的なブラウンアウトなどのチップレベルの異常な動作を示しています。これは、機能安全レベルを高めるのに役立ちます。

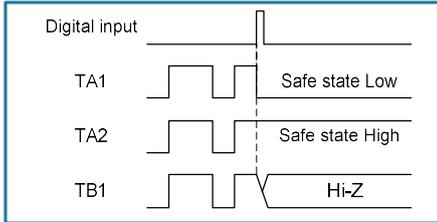
最後に、グローバル出力ディセーブルレジスタを使用すると、緊急シャットダウンのために、すべての出力が1回の書き込みアクセスで同期的に無効にできます。

# 多数のフォルト(障害)管理オプション

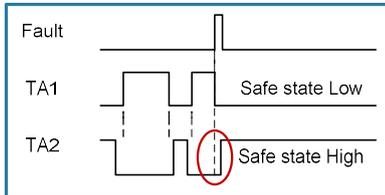
アナログ障害



デジタル障害



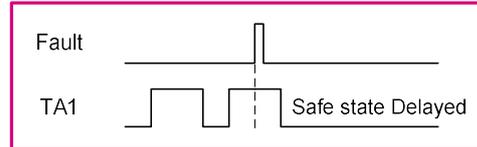
障害時のデッドタイム挿入



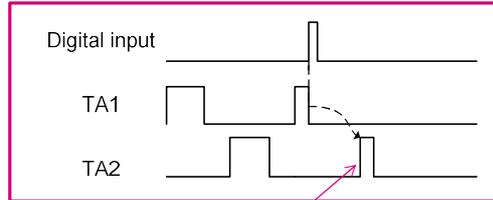
インダストリアル標準機能

高分解能タイマのユニークな機能

遅延アイドル(LLCコンバータの場合)



バランス・アイドル(プッシュプル・コンバータ用)

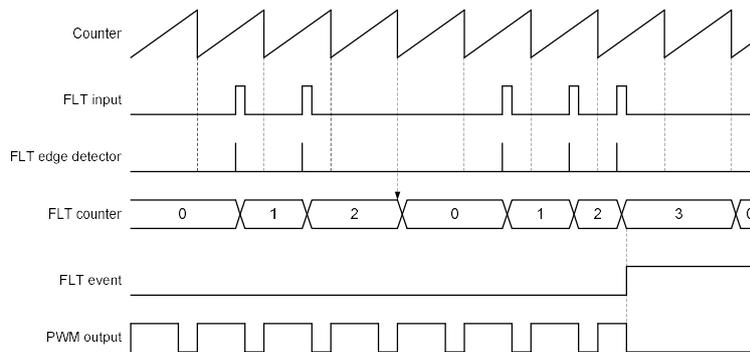


PWMシャットダウン前に代替でHWIによってコピーされた短縮パルス



高分解能タイマは複数のフォルト保護オプションを提供します。一部はインダストリアル標準の機能です。アナログ障害はコンパレータを使用します。ユーザー定義の閾値に達すると、コンパレータのトリッピングによってPWM出力がシャットダウンします。デジタル障害モードでは、システムはデジタル障害トリガを受信すると安全な状態になります。出力セーフ状態の1つがアクティブな場合、デッドタイムを自動的に挿入して、デッドタイム違反なしに障害状態から安全状態に移行します。さらに、高分解能タイマは、いくつかのユニークな保護機能を提供しています。LLCコンバータの場合、遅延アイドルは出力の現在のパルスを維持し、障害状態は完了後にのみ入力されます。プッシュプルコンバータの場合、バランスアイドルモードは、コンバータが実際に障害状態に入る前に、障害がトリガされたときに2つの出力パルス幅の間の完全なバランスを保証します。故障により短縮された出力パルスは、動作停止前に代替出力に自動的にコピーされます。

- 2つのオプションで障害ブランキングを追加可能:
  - ターンオン時(リーディング・エッジ・ブランキング)、またはCMP3とCMP4イベントの間
- 2つの動作モードがある故障カウンタ
  - 即時モード:期間中にN個の連続した障害が発生した場合に発生する障害
  - 累積モード:複数のPWM期間内に障害が1回発生した場合に発生する障害



フォルト(障害)イベントは、2つの方法でフィルタ処理できます。

障害ブランキングを行い、特定の期間、PWMサイクルの開始時(これはリーディングエッジブランキングとも呼ばれます)、またはCMP3とCMP4の比較レジスタを使用して、プログラム可能な開始と幅のウィンドウの間に、障害が無視されるようにすることができます。

もう1つのオプションは、障害カウンタでフィルタリングを行い、偽のエラー情報を破棄し、真のエラーのみを考慮することです。障害カウンタは、外部イベントカウンタと同様に、2つのモードで動作できます。

即時モードでは、N個の連続した外部障害が1つの期間内に発生すると、すぐに障害が生成されます。障害カウンタは、現在のPWM期間の終了時にリセットされます。

累積モードでは、期間の終了時に外部障害カウンタはリセットされず、ピリオド内に障害がない場合にリセットされます。この障害は、FLT入力の3つの立ち上がりエッジの後に、図の右側に示すように、連続した複数の期間に発生した場合にのみ生成されます。逆に図の左側では、第3ピリオドを経て、3つ目の障害なしで連続した障害が2つしか存在しないため、障害カウンタはリセットされます。

# 高分解能タイマによるA/Dコンバータへのトリガ

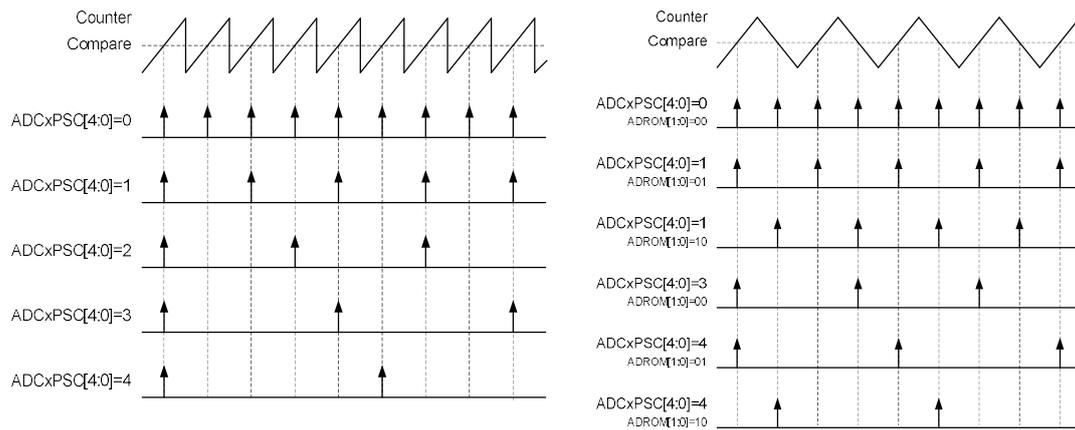
- 高分解能タイマには10個のA/Dコンバータ・トリガ・チャンネルがある
  - A/Dコンバータあたり2チャンネル、レギュラとインジェクト
  - 複数のコンバータに対して最大10個の独立したA/Dコンバータ・プロセスを並列で使用可能
- 各トリガ・チャンネルには32のソースがある
  - 各タイミング・ユニットからの4/5イベント(マスタを含む)と5つの外部イベント
  - トリガ選択レジスタは、オンザフライ・トリガソース更新用にプリロードされる
- トリガ1~4に対して複数のソースを同時に有効にすることが可能
  - 典型的な使用例:インターリーブ・コンバータ
- トリガ5~10に対して1つのシングルソースが可能



高分解能タイマは、レギュラおよびインジェクトシーケンサー用に、A/Dコンバータあたり2つのチャンネルを持つ10個のA/Dコンバータトリガチャンネルを持っています。これにより、複数のコンバータに対して最大10個の独立したA/Dコンバータの動作を並列で実行できます。

各トリガチャンネルには、マスタタイマの5つ、外部イベントの5つ、タイミング単位ごとに4つまたは5つを含む32のソースがあります。多相のフェーズコンバータで一般的に示されているように、トリガ1~4の複数のソースを同時に有効にすることが可能です。トリガ5~10では、一度に1つのイベントしか許可されてません。最後に、トリガ選択レジスタは、オンザフライのトリガソース更新のためにプリロードされます。

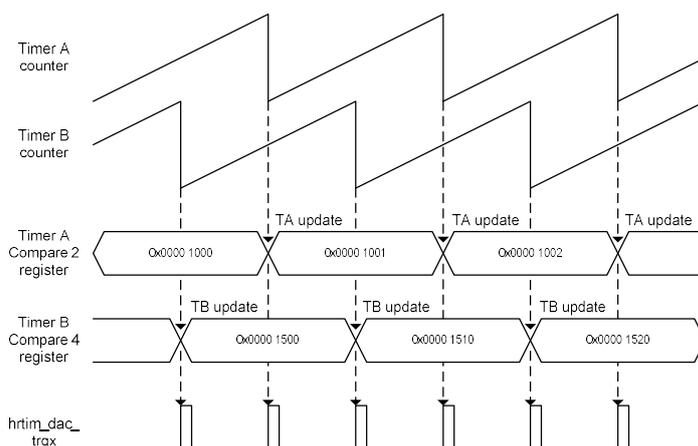
- 高周波スイッチング・アプリケーションでは、A/Dコンバータ・ポストスケーラを使用してA/Dコンバータのトリガレートを低減することが可能
- 各A/Dコンバータ・トリガは、32個のうち1つまで個別に調整可能



A/Dコンバータのトリガレートは、A/Dコンバータポストスケーラで削減できます。これにより、高周波のPWMスイッチングアプリケーションの変換数とA/Dコンバータ割込みサービスルーチンの数を減少させることが可能です。

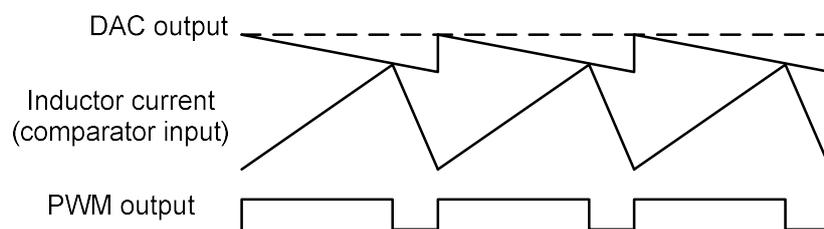
10個のA/Dコンバータトリガのそれぞれは、2つの図に示すように、32のカウンタ期間あたり1変換まで減らすことができます。右側の図は、ADROM[1:0]ビットを使用して、カウント期間のアップまたはダウンフェーズの間にA/Dコンバータトリガを配置できることを示しています。

- D/Aコンバータは、PWM周期のペースで、マスタおよびタイマ・ユニットからのタイマ更新イベントと同期して更新することが可能
- 3出力、D/Aコンバータごとに複数のソースを使用可能



高分解能タイマはD/Aコンバータトリガも提供します。これにより、マスタタイマとスレーブタイマからのタイマ更新イベントと同期してD/Aコンバータ値を更新することが可能になります。通常、これはD/Aコンバータをコンパレータの閾値として使用するピーク電流モードで使用されます。これにより、新しいD/Aコンバータ値次の切り替え期間の最初に適用できます。3つのD/Aコンバータトリガが使用可能であり、同じトリガに対して複数の同時ソースを使用できます。

- D/Aコンバータを使用し、電流値との比較に負の鋸歯の形(スロープ)を適用することによって適応
- この鋸歯はPWMと同期する必要があり、高分解能タイマは2つのD/Aコンバータのトリガを備えている
  - 鋸歯をリセット(同期)する場合
  - D/Aコンバータの出力値を減らす場合



高分解能タイマはスロープ補償の技術を容易に実施することが可能です。これは、ピーク電流モードコンバータに必要です。この場合、PWM出力は、D/Aコンバータによって設定された閾値と電流値のレベルを比較するコンパレータによってオフにされます。この構成で電源の安定性を保証するには、図に示すように、コンパレータに接続されたD/Aコンバータ出力にスロープ(鋸歯)を適用する必要があります。

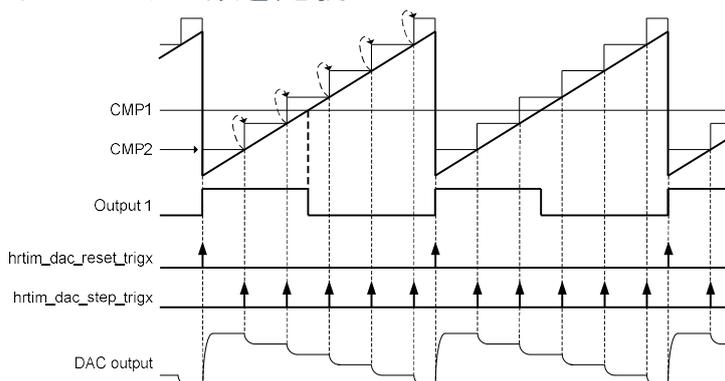
この鋸歯はPWM波形と同期する必要があります。これは、2つのD/Aコンバータトリガを使用して、鋸歯信号をリセットする(開始値を再ロードする)とD/Aコンバータ値を定期的に減らすためにもう1つのD/Aコンバータトリガを使用します。

鋸歯の開始値と振幅は、D/Aコンバータペリフェラルで定義されます。

## デュアル・チャンネルD/Aコンバータ・トリガ

36

- 2つの制御ビットにより、D/AコンバータのリセットおよびD/Aコンバータ・ステップ・イベントの構成が可能
  - 通常、D/Aコンバータの周期とDMP2のステップでのD/Aコンバータをリセット
  - その他のオプションが可能(ヒステリテコントロール用D/Aコンバータ矩形波)
- コンペア2(CMP2)はステップ数を定義



高分解能タイマのデュアル・チャンネルD/Aコンバータトリガ回路は、トリガ生成タイミングを調整するようにプログラムできます。デフォルトのスロープ補償の設定では、D/AコンバータリセットトリガがPWM周期の開始に送信されます。

D/Aコンバータステップトリガは、(D/Aコンバータ出力電圧をデクリメントさせるために)コンペア2がカウンタ値とマッチした状態で生成されます。このレジスタは、1つの周期内のステップ数を定義します: CMP2値は、各コンペアマッチの後に高分解能タイマによって自動的に再計算されます(図に示すように、カウント周期ごとに複数回一致できるようにします)。コンペア2のレジスタ値は、一度だけプログラムする必要があります。

(図中の階段効果は実在のアプリケーションに対して代表的なものではなく、単なる説明が目的のために掲載されているものであることに注意してください。)高速D/Aコンバータは、ステップのはるかに多い数とそれによる擬似的な直線性を可能にします。

- すべての作業レジスタは複製されている(プリロード/アクティブレジスタ)
- 2つの制御ビットは、プリロード機構の処理することが可能
  - 各タイマのプリロード・イネーブル・ビット(PREEN)
  - 更新ディセーブル・ビット(MUDIS、TxUDIS)を使用し、更新メカニズム機構を一時的に停止(UDISビットがリセットされたときに再開)
- 数多くのソースが利用可能
  - タイマ自身で(リピート、リセット)
  - 他のタイマ(マスタ、タイマA~F)から
  - オンチップ・ソース(汎用タイマ)から
  - バースト・モードDMAに続く



高分解能タイマの作業レジスタはすべてシャドウレジスタと重複しています。これは、ピリオドとコンペアレジスタ、および他の多数の設定レジスタに適用されます。これにより複数のレジスタを更新する場合にグリッチのない操作が可能です。書込みアクセスは、更新イベントが発生したときにプリロード・レジスタに行われ、PWMサイクルの開始時にアクティブ・レジスタに転送されます。2つの制御ビットにより、プリロード機構の長さを使用できます。プリロードはビットPREENを使用可能にし、各タイマで、グローバルにレジスタシャドウを有効にします。

更新無効ビットMUDISとTxUDISは、複雑な高分解能タイマの更新またはオンザフライ高分解能タイマの再構成の更新イベントを一時的に中断できます。

多数の更新トリガソースは、他のタイマ(マスタ、タイマA~F)、その他のオンチップソース(汎用タイマ)、またはDMAバーストモードに続くタイマ内で利用できます。

## 割り込み:8ベクタと100ソース

割り込みイベント	マスタ	タイマA~F	説明
受信した同期イベント	x		複数の高分解能タイマを連結する場合
遅延保護のトリガ		x	高度なフォルト(障害)保護スキーム
カウンタのリセットまたはロールオーバーイベント		x	各サイクルで発生するPWM割り込み
出力1および出力2リセット		x	割り込みを出力の変更同期する必要がある場合
出力1と出力2セット		x	
キャプチャ1と2のイベント		x	キャプチャ値の処理を許可
タイミングユニットレジスタの更新	x	x	プリロードからアクティブに転送されたコンテンツの登録
繰り返しイベント	x	x	制御ループの定期的なPWM割り込み
1から4のイベントの比較	x	x	コンペア・マッチ・イベントを示す
システム障害	x	x	MCUレベルのフォルト(障害)を示す
フォルト1~6	x	x	外部フォルト(障害)を示す
バーストモード	x	x	バースト・モードピリオド
DLL準備	x	x	DLLキャリブレーション終了

高分解能タイマは合計100ソースから割り込みを生成できます。これらは、次のように8個の割り込みベクタテーブルにディスパッチされます。タイミングユニットとマスタタイマごとに1つ、フォルト(障害)管理専用のベクタが1つ追加されます。この表には、すべてのソースが一覧表示され、それぞれの簡単な説明が示されています。

# DMA:7つのリクエスト、および91のソース

DMA要求	マスタ	タイマA ~F	説明
受信した同期イベント	x		複数の高分解能タイマをチェーンする場合のDMA転送
遅延保護のトリガ		x	高度なフォルト(障害)トリガの場合のDMA転送
カウンタリセットまたはロールオーバー・イベント		x	各PWM割込みでのDMA転送
出力1および出力2リセット		x	出力の変更時のDMA転送
出力1および出力2セット		x	
キャプチャ1と2のイベント		x	キャプチャされた値を格納するDMA転送
タイミングユニット・レジスタの更新	x	x	レジスタの内容がプリロードからアクティブに転送された場合のDMA転送
繰り返しイベント	x	x	PWM更新でのDMA転送(複数期間)
1から4のイベントの比較	x	x	コンペアマッチでのDMA転送

- タイマは、バースト・モードでDMA転送を使用して動的に再構成が可能
  - 1つのイベントでメモリ内のテーブルが選択された高分解能タイマ・レジスタに転送される
  - バーストが完了すると、選択した更新スキームごとにグローバル・レジスタの更新(プリロードからアクティブへの転送)が実行



高分解能タイマは、合計91のソースからDMA転送をトリガすることもできます。それらは7つのDMAチャンネル(タイミングユニットとマスタタイマごとに1つ)にディスパッチされます。

この表には、すべてのソースが一覧表示され、それぞれの簡単な説明が示されています。

DMAを使用して、コンバータの実行時に高分解能タイマを動的に再構成することもできます。これはDMAバーストモードを使用して行われます。

トリガされると、メモリ内のテーブルの内容が高分解能タイマコントロールとコンフィギュレーションレジスタに転送されます。DMAバースト制御レジスタは、更新するレジスタを1つずつ指定します。転送が完了すると、グローバル・レジスタ更新が発行され、新しい値がプリロードからアクティブ・レジスタに転送されます。

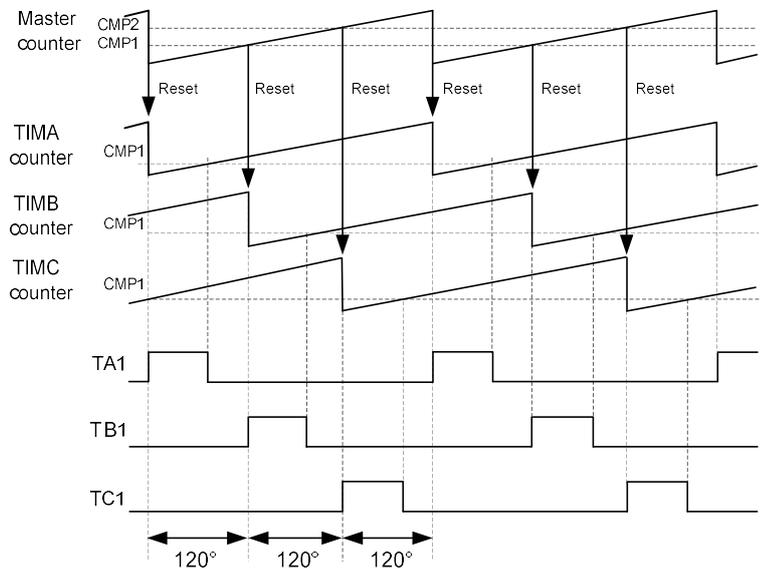
モード	説明
RUN/低電力RUN	有効
SLEEP/低電力SLEEP	有効 ペリフェラル割込みによりデバイスはSLEEPモードを終了
STOP0、STOP1	無効 高分解能タイマは機能せず、無効にしなくてはならない
STANDBY	パワーダウン STANDBYモードを終了した後、ペリフェラルを再初期化する必要がある
SHUTDOWN	パワーダウン SHUTDOWNモードを終了した後、ペリフェラルを再初期化する必要がある



高分解能タイマペリフェラルは、RUNモードとSLEEPモードでのみ有効にできます。STOPモードとSTANDBYモードでは、高分解能タイマを無効にする必要があります。

## • インターリーブ・コンバータ

- 3つの降圧コンバータを120°の位相シフトで並列で動作させ、出力電力のリップルを最小化し、入力電流の需要を分散
- マスタ・タイマは、カウンタ・リセットを使用して、3タイマ(A、B、C)をシフト
- デューティ・サイクルは、各タイマの制御ループによって調整



このスライドは、高分解能タイマのアプリケーション事例を示しています。

トリプルインターリーブコンバータのPWM信号を生成する方法を示します。3つのステップダウンコンバータは、出力電圧リップルを最小限に抑え、入力電流需要を分散させるため、120°位相シフトで並行に動作しています。

一定の位相シフトを保証するために同期し、最終的には1つのフェーズをオフに切り替え、フェーズシフトを180°に調整する必要があります。

これはマスタタイマを使用して行われます。マスタの期間に生成されるイベント、コンペア1とコンペア2はタイマA、B、Cをリセットします。

TA1、TB1、TC1出力のパルス幅は、制御ループの需要に従って、各タイミングユニットのコンペア1レジスタにプログラムされます。

TA1出力を考慮すると、マスタピリオドイベントに設定された出力で設定され、タイマAコンペア1イベントで出力がリセットされます。

出力TB1はマスタピリオド1イベントに設定され、タイマBコンペア1イベントでリセットされます。

出力TC1はマスタピリオド2イベントに設定され、タイマCコンペア1イベントでリセットされます。

各タイミングユニットの予備のコンペアレジスタを使用して、パルス幅の中央にA/Dコンバータトリガを非常に簡単に発行できます。

- このペリフェラルに関連するこれらのトレーニングを参照してください。:
  - RCC
  - 割込み
  - DMA
  - タイマ
  - D/Aコンバータ
  - A/Dコンバータ
- ドキュメント
  - 高分解能タイマクックブック（アプリケーションノートAN4539）
  - STM32F334アプリケーションノートとユーザーマニュアル（AN4885、AN4449、UM1733、UM1735、UM1736）



ここに記載されているペリフェラルは高分解能タイマの動作に影響を与えます。詳細については、対応するトレーニングを参照してください。

STM32F334の高分解能タイマには、複数のアプリケーションノートとユーザーマニュアルが用意されています。これらは、STM32G4でも部分的に有効であり、開発者が高分解能タイマの使用方法をよりよく理解するのに役立ちます。